

平成 28(2016)年度 東京大学大学院人文社会系研究科 修士課程学生募集要項

教育研究上の目的

本研究科は、人間の思想、歴史、言語、社会に対する真の理解をめざして教育と研究を実践することにより、高度な教養と思考力、表現力を身につけ、人類文化の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。

求める学生像

本研究科は、思想、歴史、言語、社会にかかわる諸問題について、独創的な観点から論理性を備えた議論を展開し、それぞれの関心に沿って、高度な言語能力を身につけ、実証性に裏打ちされた、堅実な研究を遂行することのできる学生を求める。

1. 出願資格

- (1) 大学を卒業した者及び平成 28(2016)年 3 月 31 日までに卒業見込みの者 **(第 1 号)**
- (2) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 28(2016)年 3 月 31 日までに修了見込みの者 **(第 2 号)**
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 28(2016)年 3 月 31 日までに修了見込みの者 **(第 3 号)**
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成 28(2016)年 3 月 31 日までに修了見込みの者 **(第 4 号)**
- (5) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成 28(2016)年 3 月 31 日までに修了見込みの者 **(第 5 号)**
- (6) 昭和 28 年文部省告示第 5 号をもって文部科学大臣の指定した者 **(第 6 号)** (注1)
- (7) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者及び平成 28(2016)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者 **(第 7 号)** (注2)
- (8) 外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと本研究科において認めた者 **(第 8 号)** (注3)
- (9) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと本研究科において認めた者 **(第 9 号)** (注3)
- (10) 個別の入学資格審査をもって、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者で平成 28(2016)年 3 月 31 日において 22 歳に達している者 **(第 10 号)** (注4)

(注1) 上記(6) に該当する者とは、旧大学令による大学、各省庁組織令・設置法による大学校等を卒業した者及び卒業見込みの者を示す。

(注2) 上記(7) に該当する者とは、学位授与機構又は大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び授与される見込みの者を示す。

(注3) 上記(8)又は(9) に該当する者は、平成 27(2015)年 9 月 25 日（金）までに本研究科事務部に申し出て、その指示に従うこと。

(注4) ① 上記(10) に該当する者とは、上記(1) から(9) に該当しない者のうち、4 年制の大学に相当する教育施設の卒業者（修了者）等で、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者とする。

- ② 上記(10)で出願しようとする者は、出願前に個別の入学資格審査を行うので、平成27(2015)年9月25日(金)までに書類を提出すること。提出書類等については、事前に本研究科事務部に問い合わせること。
- ③ 上記(10)に該当する者で、入学資格審査で大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者について、出願を受け付け、受験を許可する。

2. 選抜方法

- (1) 入学者の選抜は、第一次試験、第二次試験及び出身学校の学業成績等による。
- (2) 第二次試験は、第一次試験合格者についてのみ行う。

3. 募集人員

本研究科修士課程には、「基礎文化研究」「日本文化研究」「アジア文化研究」「欧米系文化研究」「社会文化研究」「文化資源学研究」「韓国朝鮮文化研究」の**7専攻**が設けられている。専攻の下には**コース**が設けられ、さらにコースの下には**専門分野**が設けられている。

各専攻の募集人員は、【表1】(8～9頁)の通りである。

なお、試験の成績によっては、入学許可者数が募集人員に達しない場合もある。

※ **文化資源学研究専攻**においては、専攻全体で募集人員を11人としており、そのうち約6人を社会人特別選抜により受け入れる。この**社会人特別選抜**は、文化資源学の分野で大学院における社会人の再教育に対する社会的要請に応えることを目的として実施するものであり、日本人及び日本国の永住許可を得ている者に限る。ただし、後者は、外国語試験において教育媒介言語を選択できない。

この社会人特別選抜枠に出願しようとする者は、1頁「1. 出願資格」に該当するとともに、出願の時点において、社会人としての実務経験が1年以上あり、かつ本専攻修了後、社会人として職業に携わる意志のあることを必要とする。

4. 試験期日 (試験場所など、試験に関する詳細は、郵送する「受験者心得」による。)

(1) 第一次試験(筆記試験) 平成28(2016)年1月23日(土)

- ・外国語試験 2ヵ国語 9:30～11:30 1ヵ国語 10:30～11:30
- ・専門科目試験 13:30～16:00
- ・論文試験 17:00～19:00 (社会学専門分野に限る)

(2) 第二次試験(口述試験等) 平成28(2016)年2月9日(火)

※ 現代文芸論専門分野、文化資源学研究専攻及び韓国朝鮮文化研究専攻については、2月8日(月)に行う。

※ 外国人受験者については、第二次試験当日に外国語の筆記試験を課す専門分野がある。

5. 出願手続

(1) 出願の方法

出願は、**郵送**に限る。郵送にあたっては、「提出書類等」を一括して封筒(本研究科所定のもの)に入れ、郵便局で「**書留郵便**」と指定して下記の宛先に送ること。

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号 **東京大学大学院人文社会系研究科 事務部**

TEL. 03-5841-3710、3712

(2) 出願期間

平成27(2015)年10月19日(月)から10月23日(金)(必着)まで。

(3) 卒業論文等の提出（補足説明（10～11頁）を参照すること。）①、②ともに複写を含め3部

①、②のいずれかの方法で提出すること。なお、期限までに提出がない場合は、第一次試験の合格者であっても第二次試験（口述試験等）の対象者とはしない。

① 郵送の場合

平成28(2016)年1月25日（月）から平成28(2016)年2月3日（水）（必着）までに、卒業論文もしくはそれに代わる論文を郵便局で「書留郵便」と指定して下記の宛先に送ること。郵送に際して、封筒等は各自で用意し、所定の「論文送付用シール」を封筒等の表面に貼付すること。

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号 東京大学大学院人文社会系研究科 事務部

TEL. 03-5841-3710、3712

② 直接持参する場合

「7. 第一次試験（筆記試験）の合格発表」の日のみ、午前10時から午後1時、午後2時から午後3時まで本研究科事務部で受け付ける。

注意(1) 本学文学部を卒業見込みの者は、卒業論文等を再提出する必要はない。ただし、出身の専修課程と志望する専門分野が異なる場合には、「卒業論文もしくはそれに代わる論文」（3部）を必ず提出すること。

注意(2) 文化資源学研究専攻社会人特別選抜に出願する者は、「卒業論文もしくはそれに代わる論文」の代わりに、文化資源学もしくは文化経営学に関わり、自らの社会人としての経験に基づくレポートの提出でもよい。レポートの分量は12000字～20000字程度（A4サイズで1ページ1000字程度）を目安とする。

(4) 提出書類等（※印の書類については、本研究科所定のものを用いること。補足説明（10～11頁）を参照すること。）

※ 入 学 願 書	<ul style="list-style-type: none"> ・志望する専門分野名（専攻名、コース名ではない）を必ず記入すること。 ・外国語の試験科目は、予め選択して記入すること。
※ 研 究 計 画 書	入学を許可された場合に組みたいと考えている事項について記入すること。
成 績 証 明 書	出身学校において、所要事項が記入されていること。
卒業（見込）証明書	成績証明書に卒業（見込）年月日が記入されている場合は不要。
写 真 2 葉 (同一のもの)	最近3ヵ月以内に撮影した正面・上半身・脱帽のものを、入学願書及び受験票に貼ること。白黒・カラー共に可（縦5cm×横4cm）。裏面に氏名を記入すること。
※ 送 付 用 シ ー ル	出願者本人の宛名を記入すること。
※ 受 験 票 送 付 用 封 筒	出願者本人の宛名を記入し、372円分の切手を貼ること。
検 定 料 ※（検定料振込依頼書）	<p>30,000円</p> <p>銀行振込又はコンビニエンスストア若しくはクレジットカードでの払込に限る。いずれの場合においても、振込手数料又は払込手数料は出願者本人の負担となる。振込は平成27(2015)年10月13日（火）以降にすること。（外国人出願者のうち日本政府（文部科学省）奨学金留学生は検定料を納付しないこと。ただし、本学に在学中（研究生を含む）の者以外は、日本政府（文部科学省）奨学金留学生である証明書を提出すること。）</p> <p>【銀行振込の場合】</p> <p>所定の振込依頼書に必要事項を記入のうえ、最寄りの金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局不可）から振り込むこと（ATM、インターネット等は利用しないこと）。振り込みの際、振込金受取書（B票）及び検定料振込金受付証明書（C票）を受け取り、検定料振込金受付証明書（C票）を入学願書の裏面の所定欄に貼り付けること。振込金受取書（B票）は領収書なので大切に保管すること。</p> <p>【コンビニエンスストアでの払込の場合】</p> <p>コンビニエンスストアは、セブン-イレブン、サークルK、サンクス、ローソン、ファミリーマート、ミニストップに限る。払込に関する操作手順や注意事項については、別紙「東京大学大学院人文社会系研究科コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料払込方法」を参照の上、払い込むこと。払い込み後、「入学検定料・選考料取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、入学願書の裏面の所定欄に貼り付けること。</p> <p>【クレジットカードでの払込の場合】</p> <p>クレジットカードは、ビザカード、マスターカード、JCBカード、アメリカン・エクスプレスカードが利用可能。払込に関する操作手順や注意事項については、別紙「東京大学大学院人文社会系研究科コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料払込方法」を参照の上、払い込むこと。払い込み後、「収納証明書」を印刷し、該当部分を切り取り、入学願書の裏面の所定欄に貼り付けること。</p>
※ 電 算 登 録 用 紙	<ul style="list-style-type: none"> ・直接機械で読み取るので、汚したり折り曲げたりしないこと。 ・記入はHB又はBの鉛筆で入学願書と相違ないように丁寧に記入すること（ボールペン等不可）。
※ 日 本 語 能 力 証 明 書 (外国人受験者のみ)	出身大学または語学学校等の日本語（または日本学）担当教員による証明書であること。ただし、日本の大学を卒業した者又は卒業見込みの者は、提出する必要がない。
卒 業 論 文	補足説明（10～11頁）を参照すること。

6. 第一次試験（筆記試験）の試験科目

第一次試験では筆記試験を行う。筆記試験は、外国語試験と専門科目試験に分かれる。いずれも、専門分野によって試験科目が異なる。

各専門分野の試験科目は【表1】（8～9頁）の通りである。

なお、社会文化研究専攻社会学専門分野については、上記に加え、論文試験も行う。

注意(1)：外国語試験科目の表記について

【表1】の外国語試験の欄で、例えば「2（英・独・仏・露・伊・西・韓・中）」とあるのは、英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・イタリア語・スペイン語・韓国朝鮮語・中国語の中から、2カ国語を選択しなくてはならないことを示す。

また、「2（中必須、及び英・独・仏から1）」とは、中国語が必須であり、加えて英語・ドイツ語・フランス語の中から1カ国語を選択しなくてはならないことを示す。

注意(2)：専門分野共通問題、専攻共通問題について

専門分野によっては、専門科目試験の一部に、複数の専門分野にまたがる共通問題を出題することがある。

文化資源学研究専攻及び韓国朝鮮文化研究専攻については、専門科目試験の一部に、専攻内のすべての専門分野にまたがる専攻共通問題を出題することがある。

注意(3)：外国人受験者について

① 特に指示がない限り、解答は日本語で行うこと。

② 次の専門分野の専門科目試験については、日本人と同じ条件で受験する者（下記⑤を参照）を除き、英語で解答してもよい。

- ・言語学専門分野
- ・社会学専門分野

③ 外国語試験は、以下のとおり実施する。

第一次試験（筆記試験）当日…日本語。それ以外の外国語科目の試験を行う専門分野もある。（下記④を参照）

第二次試験（口述試験等）当日…英・独・仏・露・伊・西・韓・中の中から専門分野が指定する1カ国語。受験可能な外国語や「母語を除く」規定を適用するかどうかは、専門分野により異なる。（【表1】参照）

④ 次の専門分野は、第一次試験当日に、外国語試験を2科目行う。（【表1】参照）

- ・フランス語フランス文学専門分野
- ・ドイツ語ドイツ文学専門分野
- ・西洋史学専門分野
- ・社会学専門分野

⑤ 日本の高校を卒業した者は、日本人と同じ条件（【表1】参照）で外国語試験を受験しなくてはならない。

⑥ 受験外国語について確認が必要な場合は、平成27(2015)年9月25日（金）までに本研究科事務部に問い合わせ、その指示に従うこと。

7. 第一次試験（筆記試験）の合格発表

発表方法

第一次試験の合格者は、平成28(2016)年2月4日（木）午前10時に、本研究科掲示場に受験番号を掲示する。

なお、電話等による問い合わせには一切応じない。

8. 第二次試験（口述試験等）の試験科目

第二次試験では口述試験を行う。口述試験は、第一次試験の合格者に対して、主として専門科目について行い、卒業論文（またはそれに代わる論文）の審査も重視される。なお、5. (3)に記載したとおり卒業論文もしくはそれに代わる論文の提出がない場合は、第二次試験（口述試験等）の対象者とはしないので注意すること。

外国人受験者は、以下の注意を参照すること。

注意 外国人受験者の外国語試験について

- ① 受験可能な外国語や「母語を除く」規定を適用するかどうかは、専門分野により異なる。(【表1】参照)
- ② 次の専門分野は、第二次試験当日に外国語試験は行わない。
 - ・フランス語フランス文学専門分野
 - ・ドイツ語ドイツ文学専門分野
 - ・西洋史学専門分野
 - ・社会学専門分野
- ③ 次の専門分野は、第二次試験当日に、口述試験の他、外国語の筆記試験を課す。
 - ・言語学専門分野
 - ・考古学専門分野
 - ・宗教学宗教史学専門分野
 - ・日本史学専門分野
 - ・中国語中国文学専門分野
 - ・東アジア思想文化専門分野
 - ・インド文学・インド哲学・仏教学専門分野
 - ・イスラム学専門分野
 - ・スラヴ語スラヴ文学専門分野
 - ・現代文芸論専門分野
 - ・韓国朝鮮歴史文化専門分野
 - ・韓国朝鮮言語社会専門分野

9. 第二次試験（口述試験等）の合格発表及び入学手続

(1) 発表方法

第二次試験に合格し、入学許可を内定した者は、**平成28(2016)年2月18日(木)午後1時30分**に、本研究科掲示場を受験番号を掲示する。

なお、電話等による問い合わせには一切応じない。

(2) 入学許可通知

入学許可は、**平成28(2016)年3月上旬**、本人宛に通知する。

(3) 入学手続

入学許可の通知を受けた者は、**平成28(2016)年3月8日(火)から平成28(2016)年3月11日(金)の間(予定)**に、必要な入学手続(入学料の納付及び入学手続書類の提出)を行うこと。所定の期間内に入学手続を行わない場合には、入学しないものとして取り扱う。

(4) 入学時に必要な経費(平成28(2016)年度予定額)

(日本政府(文部科学省)奨学金留学生に対しては徴収しない。)

- ① 入学料 282,000円(予定額)
- ② 授業料 前期分 267,900円(年額 535,800円) (予定額)

上記納付金額は、予定額であり、入学時又は在学中に学生納付金改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用される。

10. 注意事項

- (1) 同一年度に、本研究科の二つ以上の専門分野に出願することはできない。
- (2) あらかじめ届け出た外国語以外の外国語を受験した場合は無効となる。

- (3) 提出期日までに所定の書類が完備しない入学願書は受理しない。また、出願手続後は、どのような事情があっても、内容の変更は認めず、また、書類の返却はしない。
- (4) 「受験票」及び「受験者心得」等は、11月下旬、直接本人に郵送する。**平成27(2015)年12月4日(金)**までに到着しない場合は、本研究科事務部に連絡し、受験に必要な指示を受けること。
- (5) 官公庁、企業、団体等に在職のまま大学院に入学を希望する者は、入学手続の際に、在学期間中学業に専念させる旨の勤務先の長の承諾書(様式任意)を提出すること。
- (6) 身体に障害のある者は、受験及び修学上特別な配慮を必要とすることがあるので、これを希望する者は平成27(2015)年9月25日(金)までに本研究科事務部に申し出ること。
- (7) 外国人は、入学手続までに「出入国管理及び難民認定法(昭和26年政令第319号)」において大学院入学に支障のない在留資格を有すること。
- (8) 出願手続後は、どのような事情があっても、検定料の払い戻しはしない。
- (9) 入学手続後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしない。
- (10) 出願書類における履歴等について虚偽の記載をした者は、入学後においても遡って入学を取り消すことがある。
- (11) 出願にあたって知り得た氏名、住所その他の個人情報については、① 入学者選抜(出願処理、選抜実施)、② 合格発表、③ 入学手続業務を行うために利用する。また、同個人情報は、入学者のみ① 教務関係(学籍、修学等)、② 学生支援関係(健康管理、就職支援、授業料免除、奨学金申請、図書館の利用等)、③ 授業料徴収に関する業務を行うために利用する。
- (12) 入学選抜に用いた試験成績は、今後の本学の入試及び教育の改善に向けた検討のために利用することがある。

平成27(2015)年 7月

【表1】

コース	専門分野	外国語試験		専門科目試験
		第一次試験	第二次試験	

【基礎文化研究専攻】 募集人員 55人

言語基礎応用	言語学	日本人	2 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中)		学部課程修了程度の言語学・音声学の基礎知識、言語分析能力、言語に関連する社会的・文化的現象についての基礎知識等を試験する。
		外国人	1 (日)	1 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中から母語を除く1) ※初等・中等教育において使用した主要な教育媒介言語を母語と見なす。	
形象文化	考古学	日本人	1 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中)		日本と世界の考古学に関して、学部の課程で習得した知識、方法論の理解、分析法を試験する。
	外国人	1 (日)	1 (英)		
	美術史学	日本人	2 (英・独・仏・伊・西・中)		日本・東洋・西洋美術史に関して、学部の課程で習得した知識、方法論、鑑賞法及び調査経験等を試験する。
		外国人	1 (日)	1 (英・独・仏・伊・西・中から母語を除く1)	
思想文化	哲学	日本人	2 (英・独・仏)		西洋哲学に関して、学部の課程で習得した基礎知識、哲学的思考及び論述の能力を試験する。
	外国人	1 (日)	1 (英・独・仏から母語を除く1)		
	倫理学	日本人	2 (英・独・仏・中)		西洋・東洋・日本の倫理思想史についての基礎的知識と倫理学の基本問題に関する思考力を試験する。
	外国人	1 (日)	1 (英・独・仏から母語を除く1)		
宗教学 宗教史学	日本人	2 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中)		宗教学の重要問題についての知見及び論述能力を問い、かつ、宗教史の基礎知識を試験する。	
	外国人	1 (日)	1 (英)		
美学芸術学	日本人	2 (英・独・仏・露・伊・西)		美学や芸術学に関して、学部の課程で習得した基礎知識を問い、論理的な思考及び論述の能力を試験する。	
	外国人	1 (日)	1 (英・独・仏から母語を除く1)		
心理学	心理学	日本人	1 (英)		心理学の基礎的領域及びそれに関連する神経科学や認知科学の分野から、日本語と英語で出題する。
		外国人	1 (日)	1 (英)	

【日本文化研究専攻】 募集人員 28人

日本語 日本文学	日本語 日本文学	日本人	1 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中)		国語学・国文学に関する全般的、基礎的な知識と思考能力、及び古典の読解力について試験する。
外国人	1 (日)	1 (英)			
日本史学	日本史学	日本人	1 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中)		日本の古代・中世・近世・近現代史に関して、学部の課程で習得した知識、方法論、史料の読解力を試験する。
外国人	1 (日)	1 (英)			

【アジア文化研究専攻】 募集人員 38人

アジア文化	中国語 中国文学	日本人	2 (中必須、及び英・独・仏・露・伊・西・韓から1)		中国語学・中国文学の総合的な知識や読解力について試験する。
	外国人	1 (日)	1 (中、ただし中国語を母語とする者は英語) ※初等・中等教育において使用した主要な教育媒介言語を母語と見なす。		
	東アジア 思想文化	日本人	2 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中)		中国の思想文化に関する古文の問題と現代文の問題をそれぞれ一題出題し、基礎知識と論述能力を試験する。
	外国人	1 (日)	1 (英・韓・中から母語を除く1)		
	インド文学・ インド哲学・ 仏教学	日本人	2 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中)		インド文学・インド哲学・仏教学に関して、学部の課程で習得した知識、方法論、専門的語学力を試験する。
外国人	1 (日)	1 (英・独・仏・中から母語を除く1)			
イスラム学	日本人	2 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中)		イスラム学に関して、学部の課程で習得した知識、語学、研究方法論について試験する。	
外国人	1 (日)	1 (英・独・仏から母語を除く1)			
アジア史	日本人	2 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中)		アジアの歴史に関して、学部の課程で習得した知識、方法論、分析法を試験する。	
外国人	1 (日)	1 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中から母語を除く1)			

コース	専門分野	外国語試験		専門科目試験
		第一次試験	第二次試験	

【欧米系文化研究専攻】

募集人員 33人

古典古代 言語文化	西洋古典学	日本人	2 (英・独・仏・伊)	/	古典ギリシャ語・ラテン語双方における読解力と、西洋古典学の基本的事項についての理解度を試験する。
		外国人	1 (日)		
ロマンス語圏 言語文化	フランス語 フランス文学	日本人	1 (英・独・露・伊・西)	/	フランス語フランス文学に関して、学部の課程で習得した知識、フランス語の読解力及び表現力を試験する。
	南欧語 南欧文学	外国人	2 (日必須、及び英・独・露・伊・西から1)		
広域英語圏 言語文化	英語英米文学	日本人	1 (英・独・仏・露・西)	/	イタリア語イタリア文学に関して、学部の課程で習得した知識、イタリア語の読解力及び表現力を試験する。
		外国人	1 (日)		
ゲルマン語圏 言語文化	ドイツ語 ドイツ文学	日本人	1 (独・仏・露・伊・西・韓・中)	/	英語学・英米文学に関して、学部の課程で習得した英語読解力、文章力、知識、方法論、分析法を試験する。
		外国人	1 (日)		
スラヴ語圏 言語文化	スラヴ語 スラヴ文学	日本人	1 (英・独・仏・伊・西)	/	ドイツ語学・ドイツ文学に関して、学部の課程で習得した知識、読解力、論述力、表現力を試験する。
		外国人	1 (日)		
現代文芸論	現代文芸論	日本人	2 (英・独・仏・露・伊・西)	/	ロシア語学・ロシア文学を中心に、スラヴ語学・スラヴ文学に関して、学部の課程で習得した知識、読解力、表現力、論述力を試験する。
		外国人	1 (日)		
欧米歴史 地理文化	西洋史学	日本人	2 (英・独・仏・露・伊・西)	/	西洋近代を中心に、世界の文学を幅広く（日本も視野に入れて）現代的な観点から研究するために必要な知識と思考力を試験する。
		外国人	2 (日必須、及び英・独・仏・露・伊・西から1)		

【社会文化研究専攻】

募集人員 16人

社会学	社会学	日本人	2 (英必須、及び独・仏・露・伊・西・韓・中から1)	/	社会学の理論、学説史、社会調査について基礎知識を試すとともに、社会的思考方法及び研究関心について問う。
		外国人	2 (日・英)		
社会心理学	社会心理学	日本人	1 (英)	/	社会心理学に関して、学部の課程で習得した知識、分析法、方法論を試験する。
		外国人	1 (日)		

【文化資源学研究専攻】

募集人員 11人 (うち社会人特別選抜による者、約6人)

文化資源学	文化資源学	日本人	【一般選抜】 2 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中)	/	形態資料や文字資料などの文化資料を、文化資源として分析・評価し、さらにそれらを保存・公開・活用するにあたっての諸問題に関して、知識と思考力と研究関心を問う。
			【社会人特別選抜】 1 (英・独・仏・露・伊・西・韓・中) ※社会人特別選抜において、外国人で日本国の永住許可を得ている者は教育媒介言語を外国語として選抜できない。		
文化経営学	文化経営学	外国人	【一般選抜】 1 (日)	【一般選抜】 1 (英)	文化資源の保存・公開・活用、文化施設の運営、文化活動の評価・支援、文化政策の立案に関して、知識と思考力と研究関心を問う。

【韓国朝鮮文化研究専攻】

募集人員 12人

韓国朝鮮 歴史文化	韓国朝鮮 歴史文化	日本人	1 (英・独・仏・露・韓・中)	/	韓国朝鮮の歴史と文化について、歴史学・考古学・思想などの専攻分野に関する知識・方法論を問う。
韓国朝鮮 言語社会	韓国朝鮮 言語社会	外国人	1 (日)		

※外国人受験者の外国語試験について

注意(1) 外国語試験は、以下のとおり実施する。

第一次試験 (筆記試験) 当日・・・日本語。それ以外の外国語科目の試験を行う専門分野もある。

第二次試験 (口述試験等) 当日・・・英・独・仏・露・伊・西・韓・中の中から専門分野が指定する1ヵ国語。

受験可能な外国語や「母語を除く」規定を適用するかどうかは、専門分野により異なる。

注意(2) 次の専門分野は、第二次試験当日に、口述試験の他、外国語の筆記試験を課す。

言語学専門分野、考古学専門分野、宗教学宗教学史学専門分野、日本史学専門分野、中国語中国文学専門分野、東アジア思想文化専門分野、インド文学・インド哲学・仏教学専門分野、イスラム学専門分野、スラヴ語スラヴ文学専門分野、現代文芸論専門分野、韓国朝鮮歴史文化専門分野、韓国朝鮮言語社会専門分野

東京大学大学院人文社会系研究科修士課程学生募集要項補足説明

以下は、平成28(2016)年度の人文社会系研究科修士課程学生募集要項を補足するものである。
出願にあたり、必ず参照すること。

1. 出願資格について

修士課程に入学するには、入学時において「学士」の学位を得ている必要があり、まれに教育課程が通算16年あっても「学士」の学位を得ていないために出願できないこともあるので、自分の出願資格について確認し、不明な点があれば、平成27(2015)年9月25日(金)までに本研究科事務部に相談すること。

2. 成績証明書及び卒業(見込)証明書の提出について

- (1) 本学文学部の出身者は、成績証明書を提出する必要はない。
また、本学文学部の出身者に限り、卒業(見込)証明書も提出する必要はない。
本学他学部の出身者は、後期課程(3・4年次)の成績証明書を提出すること。
- (2) 他大学の出身者は、入学願書に記載した出身大学在学期間中の成績証明書を提出すること。
- (3) 証明書は原本(紙媒体)を提出すること。まれに発行元の都合で、証明書の原本を提出できずにコピーを提出する場合があるが、この場合、発行元または公的機関で原本と相違ないことを証明の上、提出すること。

3. 卒業論文もしくはそれに代わる論文の提出について

- (1) 「卒業論文もしくはそれに代わる論文」(以下「論文」という。)については、出身大学によっては卒業論文が必須でない場合もあるが、その場合でも「それに代わる論文」を提出しなければならない。
- (2) 論文は、その内容が志望専門分野に関するものであること。卒業論文が志望専門分野に関わらない内容の場合は、志望専門分野に関する「それに代わる論文」を提出すること。
- (3) 論文が、本学に提出する時点で未完成であったり、まだ最終審査を経していない場合であっても、なるべく論文として完結した形のを適宜作成して、入学試験の審査用として提出すること。
- (4) 論文が外国文の場合は、日本語訳の提出を求められることがあるので、事前に志望する専門分野の研究室で確認しておくこと。
- (5) 作成にあたっては、散逸することがないように1部ずつ製本もしくはファイルして(ホッチキス止め、クリップ止め不可)、論文タイトルをつけること。論文は、A4程度の大きさで作成し、表紙に志望専門分野、受験番号、氏名、論文タイトルを記入しておくこと。
- (6) 同一の論文を3部提出すること。返却はしないのでコピーしたものでも差し支えない。
- (7) 卒業論文もしくはそれに代わる論文について不明な点があれば、あらかじめ志望専門分野の研究室に問い合わせること。

4. 外国人出願者への注意

- (1) 出願時において、日本政府（文部科学省）から奨学金を得ている留学生については、その在籍大学から発行された「国費留学生証明書」を提出すること。この証明がない場合は、検定料を納付しなければならない。
〔(※) 東京大学に在籍している者は、提出の必要はない。〕
- (2) 本研究科に在籍中の外国人研究生は、成績証明書・卒業証明書及び「日本語能力証明書」を提出する必要はない。

5. その他の注意事項

- (1) 検定料は銀行振込又はコンビニエンスストア若しくはクレジットカードでの払込とし、**金額は 30,000 円**であること。過不足がある場合は、入学願書を受理しない。なお、**外国人出願者のうち日本政府（文部科学省）奨学金留学生は検定料を納付しないこと。**ただし、本学に在学中（研究生を含む）の者以外は、日本政府（文部科学省）奨学金留学生である証明書を提出すること。
- (2) 出願は**書留郵便**に限るので、直接本研究科事務部に持参しても受け付けない。また、本研究科所定の封筒以外を使用したもの等についても受け付けない。
- (3) 出願書類が完備しない入学願書は、出願期間内に提出されたものであっても受理しない。
また、出願書類以外のものは、受理しない。
- (4) 各専門分野の研究・教育内容については東京大学文学部・大学院人文社会系研究科ホームページ (<http://www.lu-tokyo.ac.jp/>) 等で確認のこと。
- (5) 過去問題の入手に関しては、文学部複写センター（日本興業社）（法文2号館地階 TEL 03-3814-9301）に、直接問い合わせること。

「入学願書」「研究計画書」及び「修士課程入学試験電算登録用紙」作成上の注意

1. 入学願書の記入について

- (1) 入学願書の記入にあたっては、黒ボールペンを使用すること。
- (2) 「フリガナ」欄は、カタカナで記入すること。
- (3) 「氏名」欄は、漢字又はアルファベットで記入すること。アルファベットは、ブロック体で丁寧に記入すること。
- (4) 「写真貼付欄」に貼付する写真と受験票に貼付する写真は、同一のものを使用すること。
(正面・上半身・無帽子・無背景で最近3ヵ月以内に撮影のもの)
- (5) 「本人住所」欄は、本研究科から電話、E-Mail 又は郵便等で連絡のできる場所を記入すること。
- (6) 「出身大学」欄の「学部」「学科」等は、出身大学により「学群」「学類」等に適宜なおしてよい。
- (7) 「受験外国語」欄は、受験外国語が1ヵ国語のみの専門分野を志望する場合は、一方の欄に記入し、もう一方の欄は空欄とすること。
- (8) 「履歴事項」欄は、高等学校卒業より、空白期間のないように記入すること。また、職歴がある場合にも同様に記入すること。外国人及び外国の大学の卒業(見込)者の場合は小学校より記入し、以下は日本人同様とする。
最後に「現在に至る。」と記入すること。
- (9) 誤って記入した場合は、誤記入の部分を二重線で消し、訂正すること。

2. 「研究計画書」の提出について

- (1) 研究計画書の記入にあたっては、黒ボールペンを使用すること。(ワープロ等で作成したものの切り貼り可)。
- (2) 入学を許可された場合に取り組みたいと考えている事項について記入すること。

3. 修士課程入学試験電算登録用紙の記入について

- (1) この用紙は直接機械で読み取るのので、汚したり折り曲げたりしないこと。記入にあたっては、**HB又はBの鉛筆で入学願書と相違ないよう**丁寧に記入すること。(ボールペン等不可)。
特に、**数字は判別できるよう、「記入例」に従い明確に記入**すること。
- (2) 「志望専門分野」欄は、表紙裏の研究室電話番号一覧のコード欄に従い、該当する番号を記入すること(0は省略しない)。
- (3) 「生年月日」欄は、西暦で記入すること。月・日が1桁の場合は、頭に「0」をつけること。
- (4) 「性別」「国籍」「出身大学」「大学院在籍の有無」「研究生在籍の有無」「就職について」欄は、それぞれ該当する番号を記入すること。該当番号が1桁の場合は、頭に「0」をつけること。
- (5) 「学生証番号」欄は、本学の卒業生、卒業見込者及び研究生(外国人含む)のみ記入すること。
- (6) 「受験外国語」欄は、1ヵ国語受験の専門分野出願者、2ヵ国語受験の専門分野出願者はそれぞれ該当箇所に番号を記入すること。
また、日本語を受験する外国人出願者は、2ヵ国語受験の専門分野出願者欄の**左側**に「9」(日本語)を、**右側**に第一次試験及び第二次試験当日に各専門分野が指定するもののうち、自分の受験する外国語1ヵ国語を選択し、該当する番号を記入すること。
受験外国語が1つに特定されている専門分野の外国人受験者は、その外国語に該当する番号を記入すること。
- (7) 「出願資格」欄は、1頁「1. 出願資格第1号～第10号」のうち該当する番号を記入すること。
該当番号が1桁の場合は、頭に「0」をつけること。